



武蔵野

学校だより NO.6
令和6年10月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 大河原 博



武蔵野小 HP

校長 大河原 博

秋の訪れ 今月は50周年記念運動会！

9月を過ぎても連日の猛暑日が続きました。まだまだ暑さは残るものの、気が付けばセミの声は消え、芝生の校庭には武蔵野小名物のトンボが飛び交っています。空の雲や朝晩の風にも「秋」が感じられるようになってきました。今日から神無月。少しずつ秋は深まっています。

学校では、子どもたちが学校では **10月12日の50周年記念運動会** に向け、毎日汗を流しています。当日は、ぜひご来校いただき、子どもたちに大きな声援をいただけると幸いです。



本校の特徴的な教育活動の一つに「たてわり班活動」があります。全校を12の班に分け、月に1～2回、1年生から6年生がグループで集まり、一緒に遊んで交流する活動です。

この活動のねらいの一つに、児童の **「自己有用感」** を高めることがあります。

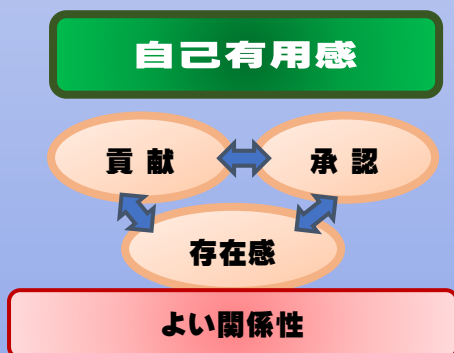
「自己有用感」とは・・・

他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚です。

◆自己有用感とは、主に「存在感」「承認」「貢献」の三つの要素から構成されます。これらの要素が互に関連し合うことで、自己有用感が高められていきます。

- ・ **存在感**：「他者や集団の中で、自分は価値のある存在であるという実感」
- ・ **貢献**：「他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況」
- ・ **承認**：「他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況」

◆自己有用感を獲得する土台として「**よい関係性**」が必要になります。安心感や被信頼感などがある関係性であることが大切です。



「他人の役に立った。」「他人に喜んでもらえた。」と感ずることで、自分自身を肯定的に評価し、人の役に立つ体験等を通して

「自分に自信がある。自分のことが好き。」と感ずる **「自己有用感」** の高い子が育ちます。

学校では、日常生活や様々な活動の中で友達や先生から誉められ、認められる場面を意図的に作り、**人とのつながりを通して社会性の基礎を形作っています。自己有用感が高まると、積極性や思いやりの心が育ちます。**

この **「自己有用感」** という感情は、小学校段階で効果的に身に付けることができますが、特に「異年齢交流」での効果が大きいとされています。上学年は下学年のお世話をしたりお手本を見せたりすることで、「喜ばれた」「役に立ってよかった」と思えるようになります。下学年は上学年に対して「遊んでもらって楽しかった」「自分もああなりたい」と思うことで、徐々に人の役に立つということを意識するようになります。

12日の **50周年記念運動会** の中でも、高学年児童が行事を支える役割に励んだり、他の学年の競技を応援したりする場面が数多く見られると思います。同じ学年の仲間同士で高め合うだけでなく、学年を超えて互いの活躍を認め合うことも価値あることです。

全校での活動は、子どもたちの成長にとって貴重な機会です。行事を通して子どもたちのよい関係性を築き、一人一人の自己有用感を高めていきたいと思っています。

【10月の生活目標：時間を大切にしよう】



時間を上手に使っている人は、時間には限りがあることをよく知っており、大切にしています。毎日しなければならないことは、先送りにせずルーティンにするなど、生活のリズムを整える習慣が出来上がると、時間の余裕も気持ちの余裕も生まれます。しなければならないこと、そして、自分が本当にしたいこと、そのどちらにもきちんと時間とエネルギーをかけていきましょう。